

令和5年度 生徒指導重点指定校 報告書 戸坂小学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

問題行動やいじめ事案が多発し、対処療法的な対応になってしまうケースが多い。学校や集団に馴染めない児童や長期間登校できていない児童が複数人いる。

2 重点目標

子どもが、楽しく安心して通える学校づくり、いじめや暴力行為等を許さない風土づくり

3 具体的な取組

ア 生徒指導主事を中心とした組織的な対応

- ・問題行動が起こった時には、生徒指導主事に情報を集中させ、管理職の指示を受けながら「聞き取りと指導のフローチャート」に沿って組織的な対応をする。「事実確認シート」を活用して記録として残す。
- ・いじめ防止委員会を毎月開催し、情報の共有化を図るとともに、予防的生徒指導の取り組み方針を決め、進捗状況を把握しながら取り組みを推進する。

イ いじめ・不登校等予防的生徒指導の実施

- ・多くの目で児童の様子を見取り情報を共有することでいじめを見逃さない環境をつくる。日頃から協働の精神を大切にし、事案の発生時は、担任が一人で抱え込まない風土をつくる。
- ・児童の学習状況や生活環境に応じた個別の配慮や支援を実施する。SCやSSWと連携や協力体制を整え、早期に支援を行う。
- ・日々の授業の中で生徒指導の三機能を生かした授業づくりを行うことで、自尊感情を高め、共感的人間関係を育てていく。
- ・ライフスキル教育やMLB教育など、予防的な取組を生徒指導主事が中心となって立案し、実施していく。
- ・児童会を中心にいじめ防止の機運を高める活動を行う。いじめをなくそうキャンペーンとして、戸坂小学校1年間のテーマ「えがおの花をさかせよう戸坂っ子」の設定。標語を募集し、優秀作品を幟旗にして掲出。さらに、「笑顔の花をさかせよう」の取り組みを実施。
- ・生活アンケートや学校環境適応感尺度等の調査をもとに全児童と面談を行い、児童の様子や対人関係などを把握するとともに助言を行うことで不安を軽減させる。

ウ 開かれた学校づくりの推進

- ・児童のよりよい成長を願う思いを共通の願いとし、年3回の希望者による教育相談や年2回の個人懇談会をはじめ、日頃の連絡を丁寧に行うことで連携を密にしながら信頼関係を築く。
- ・授業参観や学校行事、「学校へ行こう週間」など、積極的に学校公開を行い、児童の様子を見てもらったり、日頃の学習活動や生活の様子をホームページで公開することで知ってもらったりすることで、教育活動への関心を高めてもらい、その成果や課題を共有しながら協力体制を整える。

エ 組織的な生徒指導体制を構築するために必要な校内研修会の実施

- ・生徒指導規定・特別な指導に関する規定をもとに、生徒指導の在り方について共通理解を図るとともに具体的な問題行動が発生した時の対応の仕方などを確認する校内研修会をもつ。
- ・「生徒指導の三機能を生かした授業づくり」を研究テーマとして、年間を通して授業研究を行う。
- ・いじめ防止委員会を開催し、問題行動等の報告、連携を行い、生徒指導上の課題について検討する。
- ・毎週1回学年会を行い、学年内の生徒指導上の課題について共有し、具体的な指導方法を検討して取り組む。日ごろからお互いの授業を見合ったり、改善について話し合ったりするようにする。

4 月別実施内容

- | | | | |
|-----|--|----|----------|
| 4月 | 生徒指導提要・生徒指導の在り方についての校内研修会 | 毎月 | いじめ防止委員会 |
| 5月 | 生徒指導の三機能を生かした授業づくりについての理論研修会
要支援児童についての共通理解を図る校内研修会① | | |
| 6月 | 生徒指導の三機能を生かした授業研究会①
児童会「いじめをなくそうキャンペーン～テーマ」 | | |
| 7月 | 学校環境適応感尺度の分析と生かし方についての校内研修会
生徒指導の三機能を生かした国語科授業づくりについての理論研修会 | | |
| 9月 | 生徒指導の三機能を生かした授業研究会② | | |
| 11月 | 児童会「いじめをなくそうキャンペーン～標語」 | | |
| 12月 | 生徒指導の三機能を生かした授業研究会③ | | |
| 2月 | 児童会「いじめをなくそうキャンペーン～笑顔の花を咲かせよう」
要支援児童についての共通理解を図る校内研修会② | | |

5 成果

いじめ事案に組織的に対応し、生徒指導主事を含む複数で聞き取りや指導を行うことができた。指導方針を決めて児童にかかわり指導することで、何が課題なのか、また今後児童への対応にどう生かしていくかなど気付くこともできた。また、児童に寄り添う丁寧な指導を心がけることで、児童との信頼関係を築いた。聞き取った内容を管理職や担任、学習サポーターと共有したことで、児童の抱える課題の背景や家庭環境を知ることができ、対応に生かすことができた。荒れが見える学級に、空き教員が入り児童の様子を見ることで、問題行動やいじめの早期発見につなげることができた。

6 次年度への課題

いじめの未然防止、早期発見ができるように教職員のいじめに対する感度を高め、生徒指導主事を中心とした組織的な対応、迅速な対応を継続する。自尊感情を高め、共感的人間関係を育てることができる授業づくりに努めるとともに、道徳科等を通して児童の心の醸成を図る。支持的風土の醸成された学級づくりを目指し、問題行動の未然防止を図る。その基盤として、教員と児童との良好な人間関係を築く。また、長期間登校できていない児童や集団に馴染めない児童に対しては、SCやSSWをはじめとし関係機関との連携を図りながら改善を目指す。

7 今後の取組

いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題に対しての予防的な生徒指導として、「わかる・できる」ことを実感できる授業づくりに努め、学習への意欲を高める。また、教職員が肯定的評価を心がけることで児童との信頼関係を築く。さらには、教職員が「生徒指導のハンドブック」に沿った指導を心がけることで6年間を見通した指導を継続し、生徒指導に対する不信を抱かせないようにする。このように、教職員全員が同じ方向を向いて児童の指導に当たり、日ごろから児童一人一人を大切にする教育を心がけることで児童の自己指導能力が発揮できるように働きかけていきたい。また、児童が安心して学習し生活できる環境を整えるために、児童会活動において「戸塚小学校をよりよくするためのキャンペーン」を継続させ、学校全体の支持的風土の醸成を図る。不登校が長期間続いている児童に対しては、定期的なかかわりを大切にし、本児や保護者の感情に寄り添いながらSCやSSW等と連携し、根気強く対応することで登校への意欲を引き出していきたい。